

庄内地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

庄内地域では、やまがた緑環境税を活用し、平成19年度から令和2年度までに荒廃のおそれのある森林の整備を5,900ha実施しました。

次年度以降も引き続き、荒廃のおそれのある森林を健全な森林に導くため、森林の公益的機能が持続的に発揮されるよう間伐等の森林整備を推進していきます。

2. 令和3年度の森林整備について

〈針葉樹林維持型〉

手入れ不足で荒廃が進んでいるスギ林10haで間伐及び森林作業道の整備を実施しました。不良木の伐採により、間伐後の林内には光が入るようになり、森林の健全化を図りました。



〈里山林整備〉

松くい虫被害により、活力が低下している庄内海岸のクロマツ林(55ha)において、枯損木の倒木・枝折れ落下等による二次被害防止のため、枯損木の伐採及び破碎処理を実施しました。なお、伐採木の幹部分については、燃料用チップ等への有効活用を図りました。



〈森林作業道の整備・再造林等〉

林業事業者が実施した搬出間伐(151ha)、森林作業道の整備(22,516m)、再造林(22ha)への支援を行いました。また、市が実施した森林景観整備(0.3ha)への支援を行いました。



やまがた絆の森づくり推進事業の取組み

山形県トラックの森

(みどり自然課)

所在地 山辺町大字畑谷地内 面積：2.67ha

協定者 公益社団法人山形県トラック協会、畑谷地区 23名共有地、山形県

活動内容 公益社団法人山形県トラック協会は、日本経済の物流を担っている事業者団体です。事業の性格上、二酸化炭素の排出は避けては通れない状況であり、環境保全に関する取組みも物流関連事業と同等に重要であると位置づけております。

平成17年から畑谷地区内県民の森隣接地に土地を借り受け、2.75haの土地に約7,000本の広葉樹の苗を植樹しました。今年は、枯死してしまった苗木を補うため、補植会を開催しました。

活動を始めてもうすぐ20年目を迎えますが、近年では持続可能な開発目標「SDGs」が注目を集めており、森づくりは課題解決に直結する活動であると認識しております。私たちは、12番「つくる責任、使う責任」、13番「気候変動に具体的な対策を」、そして15番「陸の豊かさを守ろう」などの課題解決に貢献できるよう、今後も森づくり活動を継続していきます。



モンテディオ山形 未来の森

所在地 天童市大字田麦野地内 面積：2.0ha

協定者 株式会社モンテディオ山形、天童市、山形県

活動内容 株式会社モンテディオ山形は、地域での社会貢献活動、環境貢献活動の一環として、オオヤマザクラ植栽地の保育作業を平成29年から行っています。作業をするのは、サッカー選手の卵であるアカデミーの小学生たちです。生徒たちには、先輩方が植えた桜を大きく育てるためには手入れが必要であることを伝え、森林を育てることの意義について学びます。

サッカーのチームワークを育てるためには、対戦相手や審判への敬意、仲間への思いやり、支えてくれる人々への感謝など、自分を取り巻く環境への配慮が必要です。健康な森林を育てることも、サッカーで大事にしている精神とつながる部分があると感じています。これからも、生徒たちと共に森づくり活動を継続していきます。





やまがた緑環境税の

(みどり自然課)

見直しを行いました。

◎ はじめに

やまがた緑環境税は、森林の公益的機能の維持増進及び持続的な発揮に関する施策を行うため、県民の皆様から広くご負担いただいているものです。

税事業の効果を検証し、社会情勢の変化等への対応を検討するため、5年を目途に点検、見直しを行うこととされており、前回の見直しから5年経過した今年度、見直しを行いました。

◎ やまがた緑環境税と森林環境譲与税の用途の整理

令和元年度よりすべての県、市町村に森林環境譲与税が交付されていますが、その用途は幅広であり、やまがた緑環境税の用途と重複することから、用途の整理が必要とされました。

県内市町村に対する聞き取り調査を行った結果、市町村では森林環境譲与税を財源として、主に森林経営管理制度に基づく森林の現況調査や意向調査等を実施しており、本格的な森林整備に着手するには時間を要することがわかりました。

このため、これまでの事業スキームは継続し、今後、市町村の森林経営管理制度の進捗状況を確認しながら必要に応じ事業を見直す事としました。

◎ 令和4年度以降のやまがた緑環境税制度と活用施策について

平成29年度から取り組んでいる基本方向や令和8年度までの10カ年計画は継続し、新たな社会情勢の変化等に対応した事業を拡充しました。

また、税額・税率も現状を維持します。

主な見直しの内容については、次のとおりです。

● 環境保全を重視した森林施業の施策

- ・市町村が「森林経営管理制度」に基づく経営管理権を設定する森林については、荒廃森林緊急整備事業の対象から除外

● みどり豊かな森林環境づくりの推進

- ・ニホンジカの生息域拡大に応じた管理体制の強化
- ・食害等モニタリング調査の本格実施
- ・貴重な森林資源の更新手法の検討

● 豊かなみどりを 守り育む意識の醸成

- ・各県民の森をやまがた木育拠点と位置付け機能を拡充
- ・やまがた森の感謝祭を従来の式典型から本格的な植樹を中心とする体験型に転換
- ・ターゲットを明確にした効果的な普及・啓発による認知度の向上



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【地域産材を使用した木製品贈呈(山辺町)】

山辺町と村山地域林業振興協議会では、今年度「村山地域森の感謝祭」の開催地となった山辺町の特徴を活かした地域産材による木製品づくりに取り組みました。山辺町は全国的に有名なニットの町、町では町内産のオオヤマザクラを使った高級ニットの展示にふさわしいハンガーを20本作成し、「村山地域森の感謝祭」のオープニングセレモニーで山辺町ニット同業会に贈呈しました。1本の価格は1万円以上、高級感あふれる逸品です。同業会からは、「早速、東京で開催されるニット展示会で使用したい」とのお言葉をいただきました。また、地域産のスギを使用して製作した木製プランターカバーや、地元企業やボランティア等の協力を得て組み立てた木製ベンチを町内の小学校はじめ公共施設に設置する取組みを行いました。

この取組みは、森の恵みに感謝するとともに町産材の利用及び普及の可能性に気付く機会となりました。公共施設に設置した地域産材による製品も、子どもから大人と幅広い世代の目に触れることにより、木に親しみ、木の良さを知っていただける一助になることを期待しています。



山辺町産オオヤマザクラのハンガー

(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業)

【フロラ山形の取組み】

県内では、植物の現状を調査し、的確に評価できる人材が非常に少なくなっています。

県内の絶滅危惧植物を取りまとめた「レッドデータブックやまがた(植物編)」の調査と執筆の中核を担っているフロラ山形では、若手の人材を育成するため植物の分類に関する室内研修や現地実習を県内各地で開催しています。今年度は、3回の開催で約70名の参加者がありました。

今後も、若手人材の育成により生物多様性の持続的な保全に向けて取り組んでいきます。



【東海大学山形高等学校の取組み】

東海大学山形高等学校では、森林の公益的機能を学び、自分たちの生活と森林との関係をみんなで考えるため、地元の小中学校や森づくり団体と連携し、きのこの植菌や除伐、下刈り、間伐等の森づくり活動を行っています。世代の異なる児童生徒や団体メンバーとの交流等により森林に関する活動の輪を広げ、自身の職業観や人生観を養うことで人間としての成長を期待しています。

今後も、森づくり活動を通して豊かな人間形成に取り組んでいきます。

